

No. 103

2025.3.3

# すくらむ

発行所 福井県特別支援教育センター  
所在地 〒910-0846  
福井市四ツ井2丁目8-1  
TEL (0776)53-6574  
FAX (0776) 52-6272  
E-mail tokuse@pref.fukui.lg.jp  
URL <http://www.fukuisec.ed.jp>

- P.1 ・巻頭言 「インクルージョンの時代のセンターの役割」
- P.2 ・人材育成にかかわる市町の取組紹介
- ・高等学校への学校訪問から
- P.3 ・吃音のある子どもをもつ保護者吃音座談会
- ・全国特別支援教育センター協議会・研究協議会に参加して
- P.4 ・実践研究発表会の報告
- ・R7年度の研修講座について
- ・特別支援教育センターホームページについて



福井県特別支援教育センターは、  
県立病院関連四施設の4階にあります。

## 巻頭言 「インクルージョンの時代のセンターの役割」

国立大学法人福井大学理事 副学長 松木 健一 氏



来年は昭和100年になるという。前身である特殊教育センターができたのが、昭和58年だから、本センターも今年で42歳になる。はやいものだ。開設当時、全国的にも異彩を放つセンターであった。本県規模の県で、職員数10数名を抱えるセンターはなかった。養護学校の義務化が始まったのが昭和54年だから、当初センターの業務の中心は、就学指導にかかわることが多かった。養護学校への偏見も残っていたので、その子に適した学校選択を支援する業務は、きわめて繊細で専門的な知識が必要であった。

ところが、養護学校が特別支援学校に変わり、本センターが特別支援教育センターに変わり(平成19)、就学の決定も養育者の意向に沿って行われるようになった。こういった変化の中で、障害のある子どもの教育に対する理解が深まったのであろうか。子どもの数が減少する中であって、特別支援学校への入学者も増えている。その一方で、「発達障がい」と呼ばれる子どもの数が増え、文科省の調べでは、通常学級では4人に1人が気にかけなければならない子ども(不登校児や外国籍児等を含む)だという。

当然のことだが、本センターの役割も大きく変わってきたように思う。これまでのような障害を持つ子どもの個別支援を中心とした業務から、その子が所属する学校や、学年学級を支援する組織学習が中心となつてこよう。その際、本センターの出自でもあるのだが、通常学級と特別支援学校の垣根を超えて支援できる特徴を活かすことができる。本センターの業務は、インクルージョンでの支援が中心となつてこよう。ダイバーシティの時代は、様々な子どもが、その子の能力を活かして共通の目標に向かって学ぶ活動が中心となる。互いを活かしあう学びが、障害児教育にも通常教育にも必要な時代なのである。その先駆的役割を本センターに期待したいものだ。

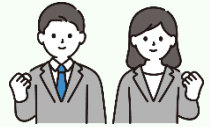
# 人材育成にかかわる市町の取組紹介

## 【小浜市の取組】

### 1 特別支援教育ブロック研究会（年3回）

【目的】 小浜市でも特別支援教育コーディネーター（以下、特コ）経験の浅い教員が増加傾向にあります。そのため、嶺南教育事務所員の講義や市教委の伝達事項に加え、各校の情報交換の時間を設定し、ベテラン特コの「技」を伝達できるようにしています。

- 【内容】
- 特コの情報交換「通級による指導の進め方について」（5/22）  
（R6年度）
    - ・ 担任と通級指導担当者との連携（課題の共有・支援の内容等）の方法について
    - ・ 保護者と通級指導担当者との連携（指導・支援の内容等）の方法について
  - 保育所等訪問支援事業 訪問支援員による講義と意見交換（8/20）
  - 特コの情報交換「移行支援の方法について」（1/22）
    - ・ 移行の場（小→中）の設定について
    - ・ 引き継いだ情報を職員間で共有するための具体的な取組について



### 2 特コの業務の「見える化」

若手・ベテランに関わらず特コ業務をスムーズに進められるよう、業務の「見える化」を行っています。ブロック研究会で協議され、共通理解を図った内容をもとに「就学支援・教育相談ガイド」を更新し、ガイドを参考にし、業務を進められるようにしています。

### 3 学校生活支援員研修会（年1回・夏季休業中）

市費採用の生活支援員を対象とした研修会を実施しています。嶺南教育事務所員による講義、ケーススタディを実施し、気がかりな児童生徒への適切な支援方法について学ぶ機会としています。

## 高等学校への学校訪問から見えてきたこと

今年度、県内の高等学校10校に訪問し、管理職、特別支援教育コーディネーターの先生方との面談を行いました。面談の目的は、次の2点としました。

- ①特別支援教育センターの業務内容についての情報提供（教育相談・研修講座・こどもとそだちの相談会など）
  - ②管理職、特コの先生方捉えている学校の現状と課題の共有（気がかりな生徒について・中学校からの移行支援について・教職員の特別支援教育に対する意識について・校内の支援体制についてなど）
- ここでは、②について管理職や特コの先生方が話された内容の一部を紹介します。

### 気がかりな生徒について

- ・「気がかりな生徒は、診断のある無しに関わらず、年々増えているように思います」「以前より、気がかりさに対する先生方のアンテナが高くなっているからでしょうか」
- ・「生徒の困り感が、障がい特性なのか、意欲の問題なのか、見立てに迷うケースがあります」

### 中学校からの移行支援について

- ・「移行支援が丁寧に行われた生徒は、入学後、支援を受けながら落ち着いて学校生活を送ることができています」
- ・「中学校からの情報が少なかったり、生徒の実態に合っていなかったりするケースがあります。移行支援の仕組みを整えてほしいです」

### 特別支援教育に対する教職員の意識について

- ・「特別支援教育に関する研修を受講する先生方も増えています」「特別支援教育センターの研修講座も活用させてもらっています」
- ・「高校は、単位履修や進級などの問題もあり、どこまで支援や配慮を行えばよいのか迷うことがあります」

### 校内の支援体制について

- ・「まずは校長と特コとがしっかりとつながっていることが一番だと思います」
- ・「特別支援教育を自分事として捉えてもらうために、生徒への対応は校務分掌で役割を分担し、多くの教員で対応にあたっています」
- ・「若手教員が気軽に悩みを語り合う会を設けています」「気がかりな生徒のことだけでなく、授業づくりについても話題にあがります」



今回訪問した高等学校では、管理職、特コの先生方が中心となって学校全体で生徒を支える体制づくりを積極的に進めていました。その中で、まずは管理職と特コとが気軽に情報を共有できる関係性にあることがとても大切だと感じました。御協力いただいた高等学校の先生方、本当にありがとうございました。



## 第8回 吃音のある子どもをもつ保護者吃音座談会

令和6年11月9日(土)開催

第8回となる今回は、講師として4年ぶりに長野県東御市民病院 言語聴覚士 餅田 亜希子先生をお招きして対面での講演を開催することができました。また、ゲストとして関西外国語大学短期大学部 准教授 堅田 利明先生、長野県小諸養護学校 教諭 高山 祐二郎先生、大阪吃音親子の会 保護者代表 小野 弘美さんをお迎えし、グループセッションのファシリテーターとして、また心強い先輩保護者としてご参加いただきました。

第一部は「思春期・青年期を見据えて今できる支援とは」というテーマで餅田先生よりご講演をいただきました。第二部は、5～6名のグループに分かれて、日頃の悩みなどを意見交換し、保護者同士の交流を図りました。最後に堅田先生より、全体を通してまとめのお話をいただきました。今年度も県内の言語聴覚士の方がオブザーバーとして座談会に参加されました。参加者の声を一部紹介します！



### ■保護者の声

- ・餅田先生から、子どもと吃音について話をすることが大事と聞き、子どもの気持ちや吃音についての理解について、もっと真剣に向き合っていないといけないと思いました。
- ・子どもの「大丈夫」の言葉に安心するのではなく、もう少し掘り下げて状況や気持ちを聴いていくことの大切さを改めて感じました。
- ・吃音の子をもつ親との交流の場がなかなかないので、とても貴重な会でした。このような機会がもっと増えてほしいです。
- ・連発を出しながら自分がどう話しやすい環境を作っていくか、子どもと改めて話し合いたいと思いました。
- ・吃音についての知識や理解の再確認ができ、子どもへの接し方の具体例も知ることができて、たくさんの気づきをいただきました。



### ■言語聴覚士の方の声

- ・吃音について、何をどのように話していくのか、オープンに話すことの意味を改めて考えさせられました。大変勉強になりました。
- ・グループセッションでは、保護者の方のお話やお気持ちを聞くことができとても参考になりました。来年度もぜひ参加したいです。

### おすすめ図書紹介

※今回のゲストの方々分筆されています！

「こどもの吃音症状を悪化させないためにできること」海風社 堅田 利明編著

## 全国特別支援教育センター協議会・研究協議会に参加して

令和6年10月31日(木)、11月1日(金)に第48回全国特別支援教育センター協議会・研究協議会(愛知県大会)が開催されました。毎年、全国持ち回り開催となっており、久しぶりの対面参加型の実施となりました。大会主題を『共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育システム構築のさらなる推進 一つながりを大切に特別支援教育を目指して』とし、来賓や特総研の先生方、全国の都道府県や政令指定都市の教育センター指導主事など、約130名が愛知県総合教育センターに参集しました。

文科省講話では、特別支援教育課の生方課長より、「特別支援教育の充実について」との演題でお話がありました。小中高等学校については、校長のリーダーシップのもと校内委員会の機能強化の必要性に加え、インクルーシブな学校運営として、同じ建物内や隣接場所に特別支援学校を設置することで、交流及び共同学習における職員連絡会や相互の授業観察、チーム・ティーチングの体制などが進んでいるとの紹介がありました。特別支援学校においては、教育相談へのニーズの高まりを受け、センター的機能の強化が求められているとのことでした。

記念講演として、愛知県医療療育総合センター中央病院の吉川 徹 先生よりお話がありました。教育の役割は、子どもが行うべきことに対して「～ができる」ようになることを目指すのではなく、「～したい」などの挑戦することを教えることが最も重要であり、それが将来のQOLの向上につながるというお話がありました。その上で、特別支援教育センターに対しては、学校全体を見渡して「チーム学校」を後方支援すること、教育の役割が医療や福祉に出ていくことのないように連携を深めていくことが示されました。

分科会では「インクルーシブ教育システム推進に向けた特別支援教育センターの役割」として、静岡県総合教育センターの特別支援課長より報告がありました。教育センター内で、特別支援教育にかかわる法律の改定や、国や県の施策について学ぶ機会を持ち続けてきた取組が紹介されました。またセンター内の各課から横断的にメンバーを集め、特別支援教育部会を設置し、センター内における特別支援に関する情報発信や各研修受講者が利用しやすいセンターづくりを目指した取組も報告されました。高等学校を訪問する高等学校支援課指導主事が、特別支援課の力を借りずに自分たちで高校で特別支援教育の講義を行うようになったことも成果の一つとして挙げられました。続いて行われた研究協議では、各地の教育センターの取組として、県教委・療育支援センター(教育と福祉を繋ぐ機関)、あるいは相談センター等との連携の中で研修内容を精選したり、他県のセンター同士の業務提携の中で研修に参加し合い、意見交換を行ったりしながら学校支援につなげていることなどが情報交換されました。

福井県は、県として独立した『特別支援教育センター』のある珍しい地域であること、特別支援教育が黎明期から充実に移り変わる中で、県教委や教育センター、医療や福祉との連携に関することなどの現状や課題を踏まえ、当センターが行う学校支援の在り方について検討を重ねていくことが大切だと思いました。



## 実践研究発表会の報告



令和7年2月5日(水)実践研究発表会を開催しました。今年度は、来場参加とオンライン参加によるハイブリッド開催を予定していましたが、大雪対応のため、当センターとすべての方を遠隔システム(Zoom)でつないで実施することに変更しました。3年ぶりに変更したテーマ「共生社会をめざしたインクルーシブ教育の取組～多様な教育的ニーズのある子どもたちが生き生きと生活するために～」のもと、園、小学校、医療、福祉など様々な立場の方から実践報告をしていただきました。午前、午後ともに3つの発表後にブレイクアウトルームに分かれて意見交換を行ったり、参加者からチャットで質問や意見を募ったり、発表者に答えていただきました。最後に、福井大学連合教職大学院の荒木 良子氏、笹原 未来氏、小嵐 恵子氏、南雲 敏秀氏、西尾 幸代氏からご高評をいただきました。

### 参加者の声

発表1「共に育ち、共に学び合うために～難聴児が集団の中で生き生きと活動するための支援方法を探る～」  
交流学級において、多様性を認めたインクルーシブな関わり方をしていて目指すべき姿だと感じました。

発表2「教育と福祉によるSLDの児童に対する学校内での学習支援の取り組みについて」  
アセスメントの重要性と本人の気持ちに寄り添い支援者が気付いた本人の変化の一つひとつ対応されていて、素晴らしい支援だと思いました。

発表3「集団活動の中でなかま同士のかかわりを見つけていこう！」  
様々な子どもさんがおられる中、集団での活動、子ども達同士の関わりを大切にされていることがよく分かりました。

発表4「I型糖尿病児支援とソーシャル・インクルージョンの保育プロセス」  
命を預かっているという責任感、その中でもその子の思いに寄り添い、集団での育ちを保証された教育的関わりに感動しました。

発表5「こども療育センター地域支援課 地域支援グループ活動報告 ～こどもの理解や支援にリハビリテーションの視点を活用してもらうことを目指して～」  
支援をしている中で、専門的な方のアドバイスを聞きたいときもあるのでリハイクやリハシルなど活用できると良いと感じました。

発表6「多様な教育的ニーズをもつ生徒を支える高等学校の取組」  
義務教育ではない高校でもこのような支援が行われていることを知り有意義な時間となりました。

## 令和7年度の研修講座について

次年度の研修講座は、**8講座**の開催を予定しています。そのうち6講座は県外講師による講座で、Zoomを使った**オンライン研修**となっています。

7月29日(火)PM

No.3「発達に偏りのある思春期・青年期の子どもへのかかわり方を考える ～当事者の方の声から～」  
NPO法人DDAC【発達障がいをもつ大人の会】代表 広野 ゆい氏

発達障がい当事者の方の生の声を聞くことができます



8月4日(月)PM

各小中学校や市町ごとの現職教育としておすすめ

No.5「通常学級に在籍する多様なニーズのある子どもの心の受け止め方～インクルーシブ教育の視点で授業づくり・学級づくりを考える～」  
杉並区立済美養護学校 主任教諭 川上 康則 氏

8月21日(木)1日

No.8「愛着障害と発達障害の理解と愛着の問題への支援」  
和歌山大学教育学部 心理学教室 教授 米澤 好史 氏

昨年度好評の研修講座を1日研修として実施

詳細は『**研修講座 掲示板**』をご覧ください。  
(当センターHP▶研修・研究会▶R7年度 研修講座 をクリック)

申込期間:4/21(月)～6/27(金)

## 特別支援教育センターのホームページについて

新TOPページ  
に変わります!

2025年3月下旬頃 切替予定  
随時情報を発信していきます。  
ぜひご活用ください。

切替後のURLはこちらです👉

<https://www.tokuse.net>

### 新TOPページのイメージ

